



U.S. Customs and Border Protection

Immigration Advisory Program (IAP)

FACT SHEET

出入国諮問プログラムは米国税関国境取締局(U.S. CBP)の階層化されたセキュリティ戦略の一部です。目的：パートナーであるホスト国と技術と情報を共有する事によって航空機による渡航の安全を確保しセキュリティ向上を目指しています。

主要な目的

- ・ 米国行き航空機へ搭乗を図るテロリストとその他の犯罪者を阻止します。
- ・ パートナー国が不正文書を所持する渡航者数の削減をする努力を支援します

プログラム内容

米国国境取締局諮問職員は米国行き航空機の搭乗プロセス時にホスト国の空港に配置されます。それらの武器を所持しない私服の職員は航空会社とセキュリティ職員が米国行き航空機の搭乗プロセスで渡航者情報を確認する際に適切な支援をします。彼らはホスト国職員が文書審査と渡航者セキュリティ評価を行なう際に直接支援します。

出入国諮問プログラム職員は電子渡航者情報と渡航者予約情報を分析しながら潜在的脅威を審査します。出入国諮問プログラム職員は航空会社と渡航者に従事しながら照合の可能性を確認し航空会社とホスト国に“搭乗拒否”提言をしこれらの渡航者が米国行き航空機に搭乗する事を防止します。



ロンドンヒースロー空港で渡航者の文書を審査する出入国諮問プログラム職員

出入国諮問プログラム職員は航空会社、セキュリティ職員そしてホスト国政府機関に対し最新技術のトレーニングを提供する事によって不法移民経路を遮断しパートナー国に滞在する犯罪者または国外への渡航を阻止する支援をします。また、米国政府は退去プロセスにかかる費用を回避でき、航空会社は罰金、そして搭乗地に旅行者を送還する輸送費を回避する事が出来ます。

これらの米国国境取締局職員はパートナー国へのアドバイザーとして厳格に従事します。彼らはホスト国での勤務中は権限を持ちません。